



親子ひろしま訪問団

2016年訪問の記録

平成28年（2016年）8月5日～7日



神奈川県秦野市

目 次

は し が き	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 訪問の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2 訪問団員(参加者)の声	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
3 団員名簿	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
4 訪問団規約	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
5 資 料		
(1) 秦野市の市民憲章・平和都市宣言・平和の日制定文	・・・・・・・・	21
(2) 広島市平和宣言	・・・・・・・・	22
(3) こども代表「平和への誓い」	・・・・・・・・	24
(4) 広島平和記念公園・周辺ガイドマップ	・・・・・・・・	25

◆訪問団の主なスケジュール

日 時	項 目	主 な 内 容
7月21日(木) 午前9時～9時半	結団式 市長表敬訪問	市長メッセージ・千羽鶴の受け渡し 場所：秦野市役所本庁舎3階講堂
8月5日(金) } 8月7日(土)	広島訪問	① 広島平和記念資料館見学 ② 原爆の子の像への千羽鶴の奉納 ③ 平和記念式典 参列 ④ 被爆体験聴講 ⑤ とうろう流しの参加 ⑥ 平和記念公園内碑めぐり ⑦ 宮島見学
8月15日(月) 午後4時～4時半	報告会	市長への訪問団事業の報告 場所：秦野市役所西庁舎3階会議室

はしがき

広島・長崎で原爆が投下され、多くの尊い命が奪われてから、70年を超える月日が経ちました。今でも原爆の後遺症や心の傷で苦しむ方がたくさんいる一方で、復興の努力の中、平和を訴えてきた戦争体験者は減少の一途をたどり、悲惨な記憶の風化が進行しつつあります。また、現代社会の中でも、いじめや虐待、殺人により尊い命が奪われるといった悲しい報道が毎日のように流れ、世界にはいまだ紛争が絶えず、私たちが希求する平和な社会と言える状況にはないように思われます。

戦後50年を契機に始まったこの「親子ひろしま訪問団」は、今年で22回を迎えました。昨年までで、204人の親子が広島を訪問してきました。今年の広島は、3日間とも晴れの日が続き、とても暑く蝉がにぎやかに鳴いていました。71年前のこの日、この場所で、原爆が一瞬にして多くの人々の生活とその尊い命を奪ったことを思うと、言葉もありません。

戦争を起こしたのも人間、傷つき立ち上がって生きるのも人間。「人が人を傷つける」という出来事がたびたび報道されている昨今、訪問団員10名にとって、原爆ドームや平和記念資料館の見学、平和記念式典への参列、被爆体験談の聴講などの経験は、改めて平和であることや命の重みを考える大変良い機会となったと思います。

秦野市では、核兵器廃絶・非核三原則の堅持、恒久平和を柱とした「平和都市宣言」を定め、また、広島・長崎両市が主導する「日本非核宣言自治体協議会」や「平和首長会議」に加盟し、平和への思いを発信しています。

平成20年6月には、市民一人ひとりが改めて平和の大切さや命の尊さを考える機会として、8月15日を「平和の日」と制定しました。毎年、「平和の日」を絡めた日程で、市民が主体となった様々な平和事業を展開しています。

また、平成21年8月には、市役所に「平和の灯モニュメント」を市内事業所の協力を得て、自治体としては全国で14ヶ所目、神奈川県内では初めて設置しました。このモニュメントの種火は、「親子ひろしま訪問団」が広島平和記念公園から採火し持ち帰った炎を、「平和のシンボル」としてともし続けています。

今年、訪問団が広島に届けた千羽鶴はおよそ1万7千羽に上りました。一羽一羽、平和への思いを胸に丁寧に折っていただいた多くの市民の皆様に、心からお礼を申し上げます。抱えきれないほどの千羽鶴の重さに、鶴を折られた皆様の思いを感じながら、心を込めて鶴を捧げました。

平和記念式典の参列や被爆体験談の聴講などの貴重な経験を含め、被爆地・広島で見聞き学んだことを、団員一人ひとりが心に刻み込み、その思いを多くの人々に伝え、また次代へと語り継いでくれることを心より願います。

秦野市市民部市民自治振興課

1 訪問の概要

(1) 訪問1日目・8月5日(金)

- 7:50 集合(小田原駅)
- 8:08 小田原発
- 11:42 広島着
- 14:00 広島平和記念公園到着
千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納
- 15:00 広島平和記念資料館見学



「原爆の子の像」の前で千羽鶴とともに

原爆の子の像

この像のモデル^{ささきさだこ}佐々木禎子さんは、2歳の時に^{ばく}爆心地から1.7kmの自宅で被爆した。足が速く、とても元気な子だったが、小学6年生の時に^{げんぱくしょう}原爆症を^{はっしょう}発症した。入院中、^{つる}鶴を千羽折れば病気が治ると言われ、信じて折り続けたが、中学校に入学できずに亡くなった。

「原爆の子の像」は禎子さんが通った小学校の同級生たちの呼び掛けにより、全国の学校や外国からの支援により建てられた。

原子力の研究でノーベル物理学賞を受賞した^{ゆかわ}湯川^{ひでき}秀樹博士は、この子供たちの気持ちに感動し、博士の筆による「千羽鶴」、「地に空に平和」の文字が彫られた^{かね}鐘^{きぞう}を寄贈した。その鐘の下に金色の折り鶴がつるされ、^{ふうりん}風鈴式に音が出るようになっている。この鐘と金色の折り鶴は平成15年に^{ふくせい}複製されたもので、オリジナルは広島平和記念資料館に展示されている。

訪問団は、広島到着後、市民から^{たく}託された1万8千羽の千羽鶴を手に広島平和記念公園へ向かい、原爆の子の像に^{ささ}捧げた。平和記念公園には世界中から大勢の人々が集まり、原爆の子の像にもたくさんの^{ほうのう}千羽鶴が奉納されていた。



平和な未来への夢を託す少女の像



同年代の禎子さんを思い、鐘を鳴らす

平和記念公園

この地域は、元々は広島でも有数の^{はんかがい}繁華街だった。しかし、爆心地に近かったため、原子爆弾投下により^{かいめつ}壊滅した。

その後、1954（昭和29）年に平和を祈念し、建築家の^{たんげけんぞう}丹下健三氏の手により公園として生まれ変わった。



式典の準備が行われる記念公園

園内には平和記念資料館をはじめ、^{げんぱくしぼつしゃいれいひ}原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、平和の灯、平和の鐘など多くの碑やモニュメントなどが設置されている。

毎年、原子爆弾が投下された8月6日には「原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（平和記念式典）」が開催され、夜には^{もとやすがわ}元安川をはじめ市内6つの川で犠牲者を^{ぎせいしゃ いれい}慰霊する「とうろう流し」が行われている。

本年5月27日には、バラク・オバマ大統領がアメリカ合衆国大統領として初めて訪れ、原爆死没者慰霊碑の前で、核兵器なき世界の実現へ向けた想いをスピーチした。

平和記念資料館

平和記念資料館は、被爆の^{じっそう}実相を伝え、核兵器のない平和な世界の実現に^{こうけん}貢献するため設置された。本館と東館の2つの建物からなり、今年度は残念ながら東館は改修のため見学することはできませんでしたが、本館では、被爆者の^{いひん}遺品や高熱で融けた^と瓦^{かわら}等の被爆資料を展示している。

また、核実験への抗議文を展示してあり、その数は600通以上、人類最初の被爆地として、強く、地道に訴えを発し続けている。

5月に資料館を訪れたオバマ大統領は、東館1階ロビーで、同行した安倍晋三首相と共に核兵器廃絶に向けたメッセージを記した後、自らが折った鶴2羽を、子どもたちに手渡しました。

その折鶴は、テレビで見るのとは違い、静かに、そして強く、訪問団員の心に戦争や原爆の悲惨さを訴えかけた。



オバマ大統領自作の折鶴

(2) 訪問2日目・8月6日(土)

- 8:00 原爆死没者慰霊式並びに
平和祈念式参列
- 9:30 被爆者体験談の聴講
- 13:30 平和記念公園内の碑めぐり
- 19:30 とうろう流し参加



それぞれの平和への思いをとうろうに込めた

原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式

毎年8月6日に、被爆者、政府・自治体関係者など、国内外から多くの人々が参列し、原爆死没者の冥福と恒久の平和を願って行われる。

午前8時ちょうどに開会し、広島市長と遺族代表が、原爆死没者名簿を原爆慰霊碑に納めた。

この一年間に新たに亡くなったり、死亡が確認されたりした被爆者は5,511人。名簿搭載者の総数は30万3,195人に、名簿の数は111冊となった。

原爆が投下された午前8時15分、全員で黙とうし、死没者への心からの哀悼と不戦の誓いを新たにした。

黙とう後、松井一實広島市長から、世界に向けて市民の平和への願いを込めた「平和宣言」が発信された。広島市は、1998(平成10)年から核兵器保有国の駐日大使の式典への参列を求める取組みを開始し、今年は、91か国と欧州連合代表らが参列した。

松井広島市長は平和宣言で、核兵器を「絶対悪」と表現し、これを世界から消し去る道筋をつけるために、各国の為政者に向け、「情熱」を持って「連帯」し、行動を起こすことの重要性を訴えました。

訪問団は、初めて参列する式典の、テレビで見るとは異なる厳粛な雰囲気緊張しながら、参列する多くの被爆者、及びご遺族とともに黙とうを捧げた。子どもたちは、広島市長や内閣総理大臣のあいさつ、同年代であるこども代表の誓いの言葉に真剣な表情で耳を傾け、平和への思いとこの貴重な経験を、心に刻み込んだ。



あいさつをする安倍首相

原爆死没者慰霊碑

平和記念公園の中央に位置する、古墳時代の家形埴輪いえがたはにわに似たデザインの碑で、中央の石室せきしつには原爆死没者名簿が納められている。碑の正面には、「安らかに眠ってください 過あやまちは繰り返しませぬから」という言葉が刻み込まれている。

この静かで短い言葉には、原爆死没者への哀悼と、戦争という過ちを二度と繰り返さないという平和への願いと誓いが込められており、見る者の心を打つ。

原爆慰霊碑、祈りの泉、嵐の中の母子像、資料館、平和の灯は、一直線で結ばれるように設計されている。



直線上に原爆ドームが見える設計になっている

平和の灯

建立こんりゅうは、1964（昭和39）年8月1日。当時、東京大学の教授だった丹下健三氏の設計により、全国12宗派から寄せられた「宗教の火」や溶鉱炉ようこうろなどの全国の工場地帯から届けられた「産業の火」が、1945（昭和20）年8月6日生まれの7人の女性により点火された。

建立の目的は「水を求めてやまなかつた犠牲者なぐさを慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため」。この火は、点火された日以来ずっと燃え続けており、「核兵器が地球から姿を消す日まで燃やし続けよう」という



秦野市にも分けられた平和の灯

反核の象徴はんかく しょうちようである。

秦野市では、平成21年8月6日に、平和の象徴として、市役所本庁舎玄関横に「平和の灯モニュメント」を設置したが、親子ひろしま訪問団がこの「平和の灯」から採火した火を持ち帰り、ともし続けている。

被爆体験談聴講

平和記念式典参列後、講師の増岡清七さんより被爆体験のお話を伺った。増岡さんは、被爆当時の状況やその時の恐怖について子どもたちにも分かるよう丁寧に話し、その言葉は、戦争そして原爆の恐ろしさ、平和の大切さを訪問団に静かにしかし強く訴えかけた。

【被爆体験談（増岡清七さんのお話から抜粋）】

1945(昭和20)年8月6日は、建物疎開作業のため、約8,300人の中学生が作業をしていた。学徒動員令により当時の中学生は、夏休みもなく工場等で作業や建物疎開に従事することになっていた。

建物疎開とは、空襲による火災の延焼を防ぎ、住民の避難場所のために建物を壊し、空き地をつくることで、当時、県庁や市庁舎周辺は建物疎開で空き地となっていた。当日、増岡さんら3年生の半数の70人は、爆心地から約1kmの場所で、引率の先生の話聞いていた。

午前8時15分、突然、左からの風で押し上げられ、地面にたたきつけられた。そのまま意識を失い、原爆特有の「ピカ（光）ドン（音）・きのこ雲」の記憶はなかった。

意識が戻り、見回すと夜のように真っ暗な中、空から火が降って見え、悲惨な状況が広がっていた。原爆が落ちたと知ったのは後のことだった。

生き残った学友たちを見ると、みんな皮膚が垂れ下がり、一見誰だかわからないほどの形相だった。皮膚が熱で剥がれ、爪のところで止まり、垂れ下がっていた。

増岡さんも左顔面や腕など皮膚が垂れ下がっていた。何が起こったのか、どこが安全なのかもわからないまま、爆心地から市外へ必死で逃げた。炎に焼かれ、死に逝く人たちを見ながら、とにかく「死にたくない」一心で逃げた。「生きたい」ではなく「死にたくない」という気持ちで。「生きたい」には希望があるが、「死にたくない」は絶望の中で感じる。広島市の

増岡清七さん（広島市在住）



爆心地から約1kmで被爆。当時中学3年生。

戦後、高校で教鞭をとっていたが、退職後、「被爆語り部」として、反核・平和を訴え続けている。

現在、「広島県高等学校被爆教職員会」会長。

街が炎で燃え上がっている中「死にたくない」とたどり着いた防空壕^{ぼうくうごう}には、人が重なり合い、あふれていた。

瀕死^{ひんし}の状態^{こかげ}で、水や家族を求めていた。木陰でそのまま眠ってしまったところを翌日、救助隊の馬車で市外の民家の座敷^{ざしき}に運ばれた。すでに多くの人丸太のように横たわっていた。この時、初めて汚い布^{かんぶ}で患部^ふを拭いたが、治療^{ちりょう}はされなかった。



増岡さんの話^{うみ}に、真剣にメモを取る団員たち

翌日、汚い茶碗にお粥^{かゆ}が1杯置かれたが、皮膚^{うみ}の膿で、左目と口が開かず、食べるのに困った。皮膚が垂れ下がった左顔面や腕に、太陽の光が当たると、針でチクチク刺すような痛みが続いた。数日後、行方を必死で探してくれた父親と再会し、荷車^{にぐるま}に載せられ親戚宅^{しんせき}に行った。

その時は、増岡さんの体^{きづか}を氣遣^{ぜんかい}って教えられなかったが、自宅は全壊、母親は即死していたと、後に父親から伝えられた。療養^{りょうよう}のための旅行で留守にして死を免れた父親も翌年、増岡さんが15歳のときに亡くなった。恐らく、増岡さんの行方を探すために原爆投下直後の広島^{ざんりゅうほうしゃのう}の街を歩いて回る中で、残留放射能^{だび}を浴びてしまったためと思われる（入市被爆^{かそう}）。火葬する設備がなく、自分自身で荼毘^{だび}に付した。既に兄は特攻隊員^{すて}として沖縄^{とっこうたいいん}で戦死しており、家族は姉と2人きりになってしまった。

学友たちも多くが原爆により亡くなったが、そのうちの一人の遺品が、平和記念資料館に展示されている。

原爆ドーム

後に「原爆ドーム」と呼ばれるこの建物は、1915（大正4）年に広島県の物産品の販売促進^{はんぱいそくしん}を図る拠点^{きょてん}として建設され、建設当時は「広島県物産陳列館^{ぶっさんちんれつかん}」という名称だった。その後、「広島県産業奨励館^{さんぎょうしょうれいかん}」と改称^{かいしょう}されたが、県下の物産品の展示・販売を行うほか、博物館、美術館としての役割^にも担っていた。

しかし、戦争が激しくなった1944（昭和19）年3月、産業奨励館としての業務が廃止され、内務省中国・四国土木出張所や広島県地方材木・日本材木広島支社など統制^{とうせい}会社の事務所として使用されていた。

設計者はチェコの建築家ヤン・レツル氏で、構造は一部鉄骨を使用したレンガ造り、石材とモルタルで外装が施^{ほどこ}されていた。全体は3階建てで、正面中央部分に5階建ての階段室、その上に銅板^{だえんけい}の楕円形ドームがのっていた。

爆心地から約200mの場所に位置し、原爆投下により爆風と熱線を浴びて大破し、天井から火を吹いて全焼した。爆風がほとんど垂直^{すいちよく}に働いたため、本館中心部は奇跡的に倒壊^{きせきてき}を逃れたものの、館内にいたすべての人々は即死^{とうかい}している。



平和、そして核兵器廃絶の象徴である原爆ドーム

鉄骨部分がむき出しの残骸^{ざんがい}と化し、いつからともなく「原爆ドーム」と呼ばれ、1996(平成8)年に世界遺産へ登録された。

静かに佇^{たたず}む原爆ドームの姿は、平和記念資料館で原爆に関する様々な資料を見た訪問団に、同じような悲劇を繰り返してはいけないと改めて強く感じさせた。

平和記念公園内の碑めぐり

平和記念公園及びその周辺には、原爆犠牲者の慰霊碑など、50を超える原爆関連の記念碑や記念建造物がある。訪問団はボランティアガイドの案内を受けながら平和記念公園内の碑めぐりを行った。

被爆したアオギリ

爆心地から約1.5キロ離れた東白島町^{ひがしはくしまちょう}にあった当時の広島通信局^{ていしんきょく}の中庭に、3本のアオギリの木が植えられていた。

原爆の投下によって、熱線と爆風をまともに受けた3本のアオギリは、枝葉が全て無くなり、爆心地側の幹の半分が焼け焦げた。

しかし、枯れ木同然だったアオギリは、翌年の春、奇跡的に新芽を出し、その姿は、原爆投下と敗戦によって疲弊^{ひへい}した人々の心に、生きる勇気と希望を与えた。





その姿で原爆の被害を訴え続けるアオギリ

1973（昭和48）年、当時の中国郵政局（かつての通信局）の建て替えに伴い、平和公園内の現在の場所に移植された。3本のうち1本は枯れてしまったが、この被爆したアオギリの種子は国内外に贈られ、「被爆アオギリ2世」として大切に育てられている。

峠三吉詩碑

峠三吉とうげさんきちさんは、爆心地から約3キロ離れた自宅はなで被爆した。その体験を文学の活動を通して発表し、原爆反対、平和擁護ようごの作品を数多く残した。その代表作である「原爆詩集」は、世界的な反響はんきょうを与えた。

平和記念公園内の碑文には、次のような詩が刻まれている。

「ちちをかえせ ははをかえせ
としよりをかえせ こどもをかえせ
わたしをかえせ
わたしにつながるにんげんをかえせ
にんげんの にんげんのよの
あるかぎり
くずれぬへいわを へいわをかえせ
峠 三吉」



峠三吉詩碑にもたくさんの千羽鶴が捧げられている

島病院

1933年に開業。原子爆弾の投下により壊滅したが、1948年に同所に再建された。

広島市への原爆投下における爆心地として、各時代の資料に「島病院」「島外科」と記載されるが、これらはすべて現在の島外科内科にあたる。

1945年8月6日に原子爆弾・リトルボーイが投下された際、病院の上空で大きく裂いたことが調査により判明したため、同所が爆心地とされている。

原爆供養塔

爆心地に近いこの付近には、被爆後、遺体が散乱し、また、川から引き上げられたものなど、無数の遺体が運ばれ、茶毘にふされた。

1946（昭和21）年、市民からの寄付により、仮供養塔、仮納骨堂、礼拝堂が建立され、その後、1955

（昭和30）年に、広島市が中心となり老朽化した納骨堂を改築し、各所に散在していた引き取り手のない遺骨もここに集め納めた。身内の見つからない遺骨や氏名の判明しない遺骨約7万柱が納められている。

毎年8月6日には、さまざまな宗教・宗派合同の供養慰霊祭が営まれている。



犠牲となられた方々の供養塔

韓国人原爆犠牲者慰霊碑

終戦時、日本には約300万人の朝鮮人がおり、数万人が広島市内で被爆したといわれている。

「死者の霊は亀の背に乗って昇天する」という故事にならって、亀を形どった台座の上に碑柱が建ち、その上に二つの竜を刻んだ冠が載せられている。



多くの花が手向けられた慰霊碑

碑は、当初、軍人であった朝鮮王家の一族李殿下が司令部への出勤途中に原爆投下に遭い、その後発見された場所付近ということから、本川橋西詰めに建立された。

その後、各方面からの強い要望により、1999（平成11）年7月に平和記念公園内に移設された。慰霊碑の石は、国に帰れなかった人々への思いから、ふるさと韓国の石が使われている。

平和の鐘

核兵器と戦争の無い平和な世界の達成を目指し、その精神文化運動のシンボルとして建立された。この鐘の音を広島から世界の隅々まで響き渡らせ、全人類の一人ひとりの心にしみわたらせることを願い、訪問者が自由に鐘を鳴らせるようになっている。

鐘は、^{ぼんしょう}梵鐘の分野で^{じゅうようむけいぶんかざいほじしや}重要無形文化財保持者（人間国宝）である^{かとりまさひこ}香取正彦が制作し、表面には「世界は一つ」を象徴する国境の無い世界地図が浮き彫りにされている。

^{つきざ}撞座は、原水爆禁止の思いを込めて原子力のマークがデザインされており、^{しょうろう}鐘楼の周囲の池には^{おおが}大賀ハスが植えられている。

被爆当時、ハスの葉で傷を覆い、火傷の痛みをしのいだという被爆者の霊を慰めたものである。



平和な世界を願い、平和の鐘をつく



とうろう流し

原爆は一瞬にして多くの命を奪った。そして、即死を^{まぬか}免れてもひどい火傷を負った人たちが大勢いた。その人たちの多くは、その熱さと痛みに耐えかねて近くの川に次々に身を投げ、川面には遺体が浮き、川底にも遺体が沈んでいたという。

戦後、駅前を中心にヤミ市がにぎわい、中心部にバラック建ての商店が建ち始めた昭和23～4年ごろ、親族や知人を原爆で失った遺族や市民たちが^{ついぜん}追善と供養のため、手作りの^{とうろう}灯籠を川に流したのが、「とうろう流し」の始まりと言われている。

灯籠には、亡くなった方の名前と流した人の名前を書き込むのが一般的だが、最近では「平和への思い」が書かれる光景も目立つ。長い歴史を持つ「とうろう流し」は、慰霊とピースメッセージの両方の意味を持つようになった。毎年、8月6日の夕刻から^{もとやすばし}元安橋の上流から流される。

広島訪問2日目を終えた訪問団10人は、平和施設見学や平和記念式典出席を経て感じたそれぞれの平和への思いを乗せて、灯籠を流した。



とうろうに書くメッセージを真剣に考える団員

(3) 訪問3日目・8月7日(日)

- 9:00 広島駅発
- 10:40 世界遺産「いつくしまじんじゃ厳島神社」着
- 16:57 広島駅発
- 20:36 小田原駅着・解散



世界遺産・宮島「厳島神社」を見学



2 訪問団員（参加者）の声

(1) 訪問前の感想

ア 親の声

- 「広報はだの」で、親子ひろしま訪問団募集の記事を毎年見ていました。機会があれば、是非参加したいとも思っていました。学校ではまだ日本の歴史も習っていないようで、どこまで戦争や原爆のことが理解できるか不安がありましたが、今回応募しました。参加が決まってから、親子で「はだしのゲン」を読んだり、佐々木禎子さんのことを調べたり、広島から持ち帰った「平和の灯」のことを知りました。そういえば数年前に、図書館前に「被爆桜」を植えたこともありました。

今回、平和祈念式典に参加し、原爆ドームの前に立つことで、本を読んだだけではわからない何かを感じ、これを機会に戦争や平和について考えるきっかけになればと思います。

- 祖母より子どもの頃から、戦争中の話をたびたび聞かせてもらっていましたが、私にとっても戦争は実感が持てない「過去の話」であり、戦争や原爆について子どもに伝えて行くのは難しい事です。

娘は、平和が「当たり前」と言うよりも「平和とは何か」「この日本がどれだけ今平和であるのか」も、しっかり考えられないと言った方が良いかも知れません。

今回、このような貴重な体験をさせていただく事で、悲惨で繰り返してはならない歴史を、子どもと共に肌でしっかり感じて来たいと考えています。

資料館見学や被爆体験談等を通し、娘も「平和の尊さと感謝」を得られることを期待し、またその気持ちを胸に、灯籠流しでは、戦没者供養と世界平和を親子で一緒に願いたいと考えています。

●娘が高学年になって、少し難しい本なども読める様になり、色んな事に関心を持つ様になりました。戦争や平和について親子で考えるいい機会になると思い参加を希望しました。

戦争のない、平和な世界になるために、自分たちに何ができるのか。微力ながら考え、行動したいと思います。

広島では、式典に参加すること、被爆された方のお話をご本人から直接伺えることなど、大変貴重な体験ができることを楽しみにしています。

●原爆が悲惨なものだったことは、本やテレビなどで知っていますが、広島や長崎には行ったことがなく、遠い所の話といった気持ちです。

しかし、この先平和を守っていくためには、決して戦争を繰り返してはいけないと思います。そのためにも、戦争を知らない世代ですが、その悲惨さを伝え続けていくために、もっと知る必要があると考えます。以前から一度は広島に行きたいと思っていましたが、この度、娘が参加したいと「親子ひろしま訪問団」の用紙をもらってきましたので、良い機会と思い申し込みました。

●今年、アメリカのオバマ大統領が広島を訪問し、大きなニュースとなりました。テレビのニュースでは、原爆ドームや平和記念公園等の映像が連日、映し出されていました。それらを見ている中で「他国の方が訪問するのに、日本人である自分は一度も行ったことがない。それで良いのか」ともやもやした気分になり、同時に「一度広島に行かなければならない」という想いに駆られました。

そんな時に、親子ひろしま訪問団の募集記事を見て、式典の参加や体験談を聞くなどの貴重な体験ができることを知り、参加したいと思いました。

子どももちょうど4年生になり、一緒に広島へ行き、色々と感じ取ってほしいと思い、申込みをしました。

「平和」という言葉を辞書で調べると「戦争がなく、世の中がよいこと」とありました。その意味ですと、今の日本は「平和」と言えると思います。「平和」が子どもたちが大人になってもずっと続いてほしいと思っています。

イ 子どもの声

- まず、原爆ドームを見たいと思いました。戦争のときは、どんな生活をしていたのか、学校生活はどんなだったか知りたいです。
「はだしのゲン」をよんで、ゲンのお母さんやお父さん、みんながしんでいくばめんをみて、わたしは戦争に、病気をもっている人も、若い人も、ぐあいや、たいちようがわるい人も、なぜ、いかなければならなかったのかを知りたいです。
- 今回広島に行くのに、私は厳島神社に行ってみたいです。理由は、神社の鳥居が海のみちひきによって、下の部分海に入ったり入らなかったりする時があって、なぜその鳥居を時々海に入る場所につくったのかを知りたいと思ったからです。見たい場所は原爆ドームです。見たい理由は、なぜ他の建物ではなく原爆ドームを残したのかを知りたいからです。また、戦争のれき史が分かりそうだからです。
- 「さだこの千羽づる」を読んで、原子ばくだんがおよぼしたひがいの数々を初めて知りました。私が広島に行きたい理由は全部で4つあります。1つ目は、さだこがモデルになった「原ばくの子の像」を一目見てみたいからです。2つ目は、実際にひがいにあった人のお話をうかがいたいからです。3つ目は、資料館を見てみたいからです。4つ目は、式典に参加して、いろいろな人のスピーチを聞いてみたいからです。
- 私は前から戦争はどれだけつらく、怖い物なのかを知りたいと思っていました。それでこのお知らせを見て、ぜひ行きたいと思い、申込みました。
広島に行ったら資料館に行って戦争の服や戦争がどんなものかテレビで見たことがあるので、それをこんどは自分の目で見たいです。
そして、いつくしま神社にも行きたいです。たのしみにしています。

- 今年、アメリカのオバマ大統領が広島に行ったのを見て、私も、本当の広島に自分で行って、自分の目でしっかりと見たいと思って、親子ひろしま訪問団のおうぼ記事を見て、「広島へ行って色々なことを知りたい!」と思い、申込みをしました。聞きたいことは、「なぜ、広島に原爆を落としたのか? (落とされないといけないのか?)」、「なぜ、今年オバマ大統領が広島にきたのか?」、「広島の人たちはオバマ大統領がきて、どう思ったのか?」、「なぜ、原爆を落とされたのに、生きのこれたのか?」です。



市長表敬訪問(結団式)にて、古谷市長、ひろはたこども園の皆さんと記念撮影

(2) 訪問後の感想

ア 親の声

●訪問団への参加が決まってから、親子で「はだしのゲン」を読んだり、原爆、佐々木禎子さん、被爆アオギリなど調べることができました。あらためて秦野市が平和の灯を持ちかえったり、アオギリを植樹していることを知りました。また、子ども達は、訪問団に参加して、原爆はこわい、戦争はいやだ、かわいそうという感想を持ったようです。これも広島への旅行がきっかけで、大きな体験になったようです。親としては、この体験を心に留め、友だちに伝えたり、近い将来には何かの役に立ったり、平和への考えの核になってくれたらと思います。「かわいそう」という感想から一歩踏み出した大人としての行動へのきっかけになることを期待します。

●被爆体験の聴講を始め、平和記念式典への参列、とうろう流しと、個人での訪問ではなかなか実現できない貴重な体験ができ、「参加させていただけて良かった」と強く感謝しています。増岡さんのお話は、被爆体験談が基になる「命」に対する考えも含めての内容で、「人としてどう生きるか」という点も考えさせられる充実した時間になりました。子どもには難しい話でしたが、親子で共有した経験なので、娘の成長に合わせて咀嚼して、少しずつ伝えたり、思い出すキッカケを作ってやれたら良いのかな？と思いました。

今回の参加は当初、私の強い希望によるものでしたが、帰宅後は「行って良かった」と子どもも言っており、彼女なりに何かを感じ取れた充実した訪問になった様です。この事業はお金のかかる事ですが、得られた物は金額の何倍も大きな物だったと思います。これからもこの事業が続き、多くの親子が平和への関心を強く持ち、何らかの活動につながっていけばと願っています。

●平和な日本にいと、つつい平和そのものが当たり前のことのように思われ、71年前戦争していたことも、多くの人亡くなったことも、どこか他人事の様思われ、あまり戦争について考えることもなかったように思います。

今回このような機会をいただき、親子で初めて戦争について考え話し合いました。改めて本も読みました。「戦争はいやだ」という強い気持ちで、自分にできることで「平和」のために行動したいと思います。

●広島は初めてで、どんな旅になるのかとても楽しみにしていましたが、思った以上に充実した内容でした。平和祈念資料館は、とても混雑しており、思うように見ることができなかつたので、改めてシーズンを変えて訪れたいと思いました。しかしながら、式典への参列や平和記念



式典に参列した訪問団

式典当日に広島に行けたことは意義あることと思えました。外国人も大勢いて、日本人である自分が今回初めての訪広であることに申し訳なく感じました。子どもには、今回、早い時期に良い機会を頂き、有難いと思えました。資料館では、本館はじっくりは見れませんでした。東館地下の新着コーナーでゆったり見学でき、被爆から死に至るまでの被爆者の苦しみや、子どもや家族を想う遺族の思いや苦しみを知り、胸が痛みました。

2日目に、ボランティアのガイドさんから碑めぐりしながらの説明を聞き、大変良くわかりましたし、多少本を読んだり、情報収集はしていきましたが、知らなかつた事ばかりで、得るものが多かつたです。

申し込んだ時は、平和記念公園周辺のみだと思っていたので、厳島神社の見学もスケジュールに入っており、嬉しかつたです。

今までこんなにも原爆や平和について考えたことがなかつたので、今回の学びを親子共々後世に伝えて行けたらと思います。

●広島へ行くのは初めてで、「広島」の印象は「原爆」といううっすらとした印象でした。今回実際に行き、資料館に踏み入れてみて、あまりの無残さに言葉を失い、足がなかなか前へ進めなくなるほどでした。自分が思っていた以上の惨状で、今まで「他人事」と思っていた広島のことを、「他人事ではない」と感じました。一瞬で何十万人もの命を奪ってしまう、人間が作った「原子爆弾」、とても怖いのです。こんなことが二度と起こらないように、私が見て聞いて感じたことを、遠く離れた秦野の人に伝えること、子どもや孫に伝えること、これが自分の使命だと感じました。

イ 子どもの声

- 1万7千羽の千羽鶴のほうのうでは、禎子の像が大きくてびっくりしました。平和記念式典に参列し、小学6年生が大ぜいのなかで意見を言えるのがすごいと思いました。被爆体験談をいっしょうけんめい聞いたので、2時間の話も短く感じました。服がボロボロになったり、ハダがたれさがったりして、イメージしただけでもこわかったです。原爆でどんなに大変なことになったかわかりました。原爆をおとすことは悪いことです。碑めぐりをして、勉強してきたことがより深くわかりました。原爆は10分の1しか爆発しなかったのに、あんなに被害があつてすごいです。とろろ流しで書いたように、世界が平和になりますように。

- 平和記念資料館で見た被爆者の人形がお化けに見えて思い出すととてもこわいです。増岡さんのお話を聞いて、人間の命は買えないもの、うばつてはいけない物だと思いました。また、お話に出てきた水も飲めず死にそうな女の子の話はとてもかわいそうでした。

日本の歴史を知れた事も、新しい仲間ができたのも良かったです。戦争はこわいけど、戦争のことをもっと知りたいと思いました。宮島で、もみじまんじゅう作りの体験ができたことが、とても楽しかったです。

- げんぱくドームが前はあんなにりっぱできれいな建物だということを知って、少しざんねんでした。平和記念式典では、小学6年生2人のスピーチがとてもいんしょうに残り、原子ばくだんのおそろしさを実感させられました。

ますおかさんのお話は、長くて大変だったけど、いろんなことをきけて、いいけいけんになりました。



原爆被害の悲惨さを物語る原爆ドーム

●私はこの「親子ひろしま訪問団」を通して、とてもよい体験ができました。1日目の平和記念式典では、皮ふがとけてドロドロの人々や、やけくずれた建物、ほとんどがやけた身に付けていたくつなどがあり、怖かったです。B-29が投下した「リトルボーイ」や2さいで原爆のおそろしさに出会い、12さいではつけ病をわずらい、わずか12さいで亡くなった少女、さだ子さんの事など、たくさんを知り、戦争はいままで思っていた以上に怖くておそろしい物だと思いました。2日目の碑めぐりでは、ガイドのお姉さんの説明がとてもいねいで聞きやすかったです。1番心に残ったのは、平和の灯の土台の形が両手首を合わせて火をつつんでいるような形をしていると聞いて、原爆でひがいを受けた人々はみな平和を願っていると感じました。3日目は宮島に行きました。島のあちこちにシカがたくさんいたので少し怖かったです。そして何よりいつくしま神社は目をきらきらさせるほどきれいでした。大鳥居の所は私が行ったときは満ちようでした。とてもたのしかったです。

●私は今回広島に行って、「戦争はぜったいにしてはいけない」と強く感じました。そして、これから私が大人になっても、おばあちゃんになっても、広島の前爆のことをわすれてはいけない。また、ずっと平和が続いてほしいと思いました。世界中の人たち全員に広島の前爆のことを知ってもらい、もう戦争はぜったいしないという気持ちになってほしいと思いました。

～報告会で古谷市長へ訪問の報告～

秦野市では、市民一人ひとりが改めて平和や命の大切さを考えるため、8月15日を「秦野市平和の日」と決めました。その「平和の日」当日に、市役所にて古谷義幸市長に広島訪問の報告を行いました。

始めに、細越徹哉団長より7月21日（木）に実施した結団式から、8月5日（金）～7日（日）の3日間の広島訪問までの訪問団事業の報告を行った後、訪問団員の親子5組10人が一人ずつ、8月6日の平和記念式典に参列した思い出や、平和記念資料館の生々しい展示資料を見て感じたこと、被爆体験談の講師のお話で印象に残っていることなど、広島訪問の感想を発表しました。



被爆地・広島で見て、感じたことを、親子が自分の言葉で報告



団員の報告に耳を傾け、時折感極まる様子を見せた古谷市長



古谷市長への報告会の様子

3 団員名簿

保護者氏名	子供氏名	役 割
ほそこし てつや 細越 徹哉	ほそこし かずき 細越 一樹 南が丘小5年	団 長
ともべ ふみこ 友部 史子	ともべ ここは 友部 心葉 渋沢小4年	副団長
たむら まさみ 田村 雅美	たむら ひなこ 田村 雛子 堀川小4年	記 録
おがわ ひろこ 小川 博子	おがわ かこ 小川 果子 鶴巻小5年	会 計
かじた いずみ 梶田 和泉	かじた ゆい 梶田 結愛 西小4年	監 事

4 訪問団規約

(名称)

第1条 この訪問団の名称は、親子ひろしま訪問団（以下「訪問団」という。）という。

(目的)

第2条 訪問団は、原爆被災地である広島を訪問し、団員自らがその目で戦争の悲惨さを見ることにより、平和の尊さを学ぶことを目的とする。

(事業)

第3条 訪問団は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 原爆ドーム等を視察することにより、原子爆弾を始めとした戦争兵器使用による殺りくの悲惨さを学ぶ。
- (2) 平和祈念式典に参加することにより、無意味な戦争の否定を決意するとともに、恒久の平和の追求を決意する。
- (3) 原子爆弾が投下され、壊滅的な被害を被りながらも希望を持って築きあげられた今日の広島市等を視察することにより、平和の尊さ及び不屈の努力の成果を学ぶ。
- (4) その他目的を達成するために必要な事業。

(組織)

第4条 訪問団は、公募等の方法による希望者から選ばれ構成される親子5組10人により組織する。

- 2 訪問団に、団長、副団長、記録、会計及び監事を置き、それぞれ訪問団員の互選により定めるものとする。
- 3 団長は、訪問団の事業を総理し、訪問団を代表するものとする。
- 4 副団長は、団長を補佐し、団長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代行するものとする。
- 5 記録は、訪問団の事業を記録するものとする。
- 6 会計は、訪問団の経理を処理するものとする。
- 7 監事は、会計を監査するものとする。
- 8 訪問団の事務局は、秦野市市民部市民自治振興課に置く。

(解散)

第5条 訪問団は、第2条の目的を達成したときに解散するものとする。

(経費)

第6条 訪問団の経費は、訪問団員の自己負担金、市からの補助金、その他の収入をもって充てる。

(その他)

第7条 この規約に定めるもののほか、訪問団の運営に関して必要な事項は、団長が定めるものとする。

附 則

この規約は、平成7年6月15日から施行する。

この規約は、平成28年4月1日から施行する。

5 資料

(1) 秦野市の市民憲章・平和都市宣言・平和の日制定文

◎秦野市民憲章

わたくしたち秦野市民は、丹沢の美しい自然のもとで、このまちの限らない発展に願いをこめ、ここに市民憲章を定めます。

- 1 平和を愛する市民のまち、それは私たちの誇りです。
- 1 きれいな水とすがすがしい空気、それは私たちのいのちです。
- 1 健康ではたらき若さあふれるまち、それは私たちのねがいです。
- 1 市民のための豊かな文化、それは私たちののぞみです。
- 1 みんなの発言で住みよいまちを、それは私たちのちかいです。

この市民憲章は、秦野市の発展を願って昭和44年10月1日に制定したものです。

◎秦野市平和都市宣言

私たち秦野市民は、平和への限らない願いをこめて「平和を愛する市民のまち、それは私たちの誇りです。」と市民憲章に定めた。

私たちの責務は、この精神にのっとり永遠の平和を希求し、愛する郷土を守り次代へ引き継いでいくことである。

しかし、武力紛争は世界各地で絶え間なく続き、際限のない軍備拡大と核兵器の増強は、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

世界の恒久平和は、すべての人々の切なる願いである。私たち秦野市民は、国際平和年に当たり非核三原則を堅持するとともに、永久の平和とあらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を願い、ここに「平和都市」を宣言する。

昭和61年3月27日制定

◎秦野市平和の日制定について

私たち秦野市民は、永遠の平和を希求し、愛する郷土を守り引き継いでいく精神をうたった秦野市民憲章と秦野市平和都市宣言の理念の下に、一人ひとりがそれぞれの信条や立場を越えて、平和についてともに考え、語り合うことにより、平和への願いを未来に向け継承していくため、ここに「秦野市平和の日」を制定します。

秦野市平和の日 毎年8月15日

平成20年6月9日制定

(2) 広島市平和宣言

1945年8月6日午前8時15分。澄みきった青空を切り裂き、かつて人類が経験したことのない「絶対悪」が広島に放たれ、一瞬のうちに街を焼き尽くしました。朝鮮半島や、中国、東南アジアの人々、米軍の捕虜などを含め、子どもからお年寄りまで罪もない人々を殺りくし、その年の暮れまでに14万もの尊い命を奪いました。

辛うじて生き延びた人々も、放射線の障害に苦しみ、就職や結婚の差別に遭あい、心身に負った深い傷は今なお消えることがありません。破壊し尽くされた広島は美しく平和な街として生まれ変わりましたが、あの日、「絶対悪」に奪い去られた川辺の景色や暮らし、歴史と共に育まれた伝統文化は、二度と戻ることはないのです。

当時17歳の男性は「真っ黒の焼死体が道路を塞ふさぎ、異臭が鼻を衝つき、見渡す限り火の海の広島は生き地獄でした。」と語ります。当時18歳の女性は「私は血だらけになり、周りには背中が足まで垂れ下がった人や、水を求めて泣き叫ぶ人がいました。」と振り返ります。

あれから71年、依然として世界には、あの惨禍をもたらした原子爆弾の威力をはるかに上回り、地球そのものを破壊しかねない1万5千発を超える核兵器が存在します。核戦争や核爆発に至りかねない数多くの事件や事故が明らかになり、テロリストによる使用も懸念されています。

私たちは、この現実を前にしたとき、生き地獄だと語った男性の「これからの世界人類は、命を尊び平和で幸福な人生を送るため、皆で助け合っていきましょう。」という呼び掛け、そして、血だらけになった女性の「与えられた命を全うするため、次の世代の人々は、皆で核兵器はいらないと叫んでください。」との訴えを受け止め、更なる行動を起こさなければなりません。そして、多様な価値観を認め合いながら、「共に生きる」世界を目指し努力を重ねなければなりません。

今年5月、原爆投下国の現職大統領として初めて広島を訪問したオバマ大統領は、「私自身の国と同様、核を保有する国々は、恐怖の論理から逃れ、核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければならない。」と訴えました。それは、被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という心からの叫びを受け止め、今なお存在し続ける核兵器の廃絶に立ち向かう「情熱」を、米国をはじめ世界の人々に示すものでした。そして、あの「絶対悪」を許さないというヒロシマの思いがオバマ大統領に届いたことの証しでした。

今こそ、私たちは、非人道性の極みである「絶対悪」をこの世から消し去る道筋をつけるためにヒロシマの思いを基に、「情熱」を持って「連帯」し、行動を起こすべきで

はないでしょうか。今年、G7の外相が初めて広島に集い、核兵器を持つ国、持たない国という立場を超えて世界の為政者に広島・長崎訪問を呼び掛け、包括的核実験禁止条約の早期発効や核不拡散条約に基づく核軍縮交渉義務を果たすことを求める宣言を発表しました。これは、正に「連帯」に向けた一歩です。

為政者には、こうした「連帯」をより強固なものとし、信頼と対話による安全保障の仕組みづくりに、「情熱」を持って臨んでもらわなければなりません。そのため、各国の為政者に、改めて被爆地を訪問するよう要請します。その訪問は、オバマ大統領が広島で示したように、必ずや、被爆の実相を心に刻み、被爆者の痛みや悲しみを共有した上での決意表明につながるものと確信しています。

被爆者の平均年齢は80歳を超え、自らの体験を生々の声で語る時間は少なくなっています。未来に向けて被爆者の思いや言葉を伝え、広めていくには、若い世代の皆さんの力も必要です。世界の7千を超える都市で構成する平和首長会議は、世界の各地域では20を超えるリーダー都市が、また、世界規模では広島・長崎が中心となって、若者の交流を促進します。そして、若い世代が核兵器廃絶に立ち向かうための思いを共有し、具体的な行動を開始できるようにしていきます。

この広島で「核兵器のない世界を必ず実現する」との決意を表明した安倍首相には、オバマ大統領と共にリーダーシップを発揮することを期待します。核兵器のない世界は、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現する世界でもあり、その実現を確実なものとするためには核兵器禁止の法的枠組みが不可欠となります。また、日本政府には、平均年齢が80歳を超えた被爆者をはじめ、放射線の影響により心身に苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

私たちは、本日、思いを新たに、原爆犠牲者の御霊に心からの哀悼の誠を捧げ、被爆地長崎と手を携え、世界の人々と共に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすことを誓います。

平成28年（2016年）8月6日

広島市長 松井 一實

(3) こども代表「平和への誓い」

「人が焼けるにおいがした」

「ある者は、肌が溶けて人間には見えなかった」

原子爆弾が落とされた広島の様子を、語り部の方は語ってくれました。

思い出したくない、胸が張り裂けそう。

被爆された人の辛さは、いつまでも、いつまでも終わることはありません。

被爆者の思いや被爆の事実を自らの体験のように、想像するのです。

聞きたくても、聞くことができなくなる日が近づいています。

一瞬で街がつぶれ、日常や夢を踏みにじられた

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分の出来事を、

私たちは、もっと、知りたいのです。もっと、伝えたいのです。

悲しみや苦しみを乗り越えた人々の努力によって、

広島は青く澄んだ空の下、色とりどりの花が咲く街に復興しました。

この広島に、今年も、世界各地から、多くの人々が訪れています。

あの日の事実を知るために、平和記念公園を巡り、平和記念資料館を見学し、

語り部の方の話を聴き、原子爆弾の恐ろしさを実感しています。

そして、「あの日の出来事を伝える」と約束してくれた人たち、

平和の広がりを感じました。

私たちは、待っているだけではいけないのです。誰が、平和な世界にするのでしょうか。

夢や希望にあふれた未来は、ぼくたち、わたしたち、一人一人が創るのです。

私たちには、被爆者から託された声を伝える責任があるのです。

一人一人が、自分の言葉で、丁寧に、

戦争を知らない人へ 次の世代へ 世界の人々へ

命の尊さを 平和への願いを 私たちが語り伝えていきます。

平成28年(2016年)8月6日

こども代表

広島市立竹屋小学校6年	<small>なかおく</small> 中奥	<small>たりほ</small> 垂穂
広島市立亀山小学校6年	<small>あおき</small> 青木	<small>ゆうた</small> 優太

(4) 広島平和記念公園・周辺ガイドマップ



- | | | |
|-----------------------|---------------------|------------------------|
| 1 鈴木三重吉文学碑 | 2 旧相生橋碑 | 3 中国四国土木出張所職員殉職碑 |
| 4 広島県地方木材統制株式会社慰霊碑 | 5 原民喜詩碑(佐藤春夫の詩碑の記) | 6 動員学徒慰霊塔 |
| 7 広島市道路元標 | 8 花時計 | 9 原爆の子の像 |
| 10 平和の石塚 | 11 平和の時計塔 | 12 遭難横死者慰霊供養塔 |
| 13 原爆供養塔 | 14 平和の鐘 | 15 平和の石燈 |
| 16 韓国人原爆犠牲者慰霊碑 | 17 被爆した墓石(慈仙寺跡の墓石) | 18 平和の泉 |
| 19 平和乃観音像(中島本町町民慰霊碑) | 20 常夜燈 | 21 義勇隊の碑 |
| 22 広島二中原爆慰霊碑 | 23 広島市商・造船工業学校慰霊碑 | 24 慈母の像 |
| 25 原爆犠牲者国民学校 教師と子どもの碑 | 26 平和の像「若葉」(湯川秀樹歌碑) | 27 友愛碑 |
| 28 旧天神町南組慰霊碑 | 29 広島市立高女原爆慰霊碑 | 30 マルセル・ジュノー博士記念碑 |
| 31 朝鮮民主主義人民共和国帰国記念時計 | 32 平和の塔 | 33 嵐の中の母子像 |
| 34 祈りの泉 | 35 被爆したアオギリ | 36 全損保の碑 |
| 37 峠三吉詩碑 | 38 「材木町跡」の碑 | 39 原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑) |
| 40 平和祈念像(草野心平の詩碑) | 41 菩提樹の碑 | 42 平和の灯 |
| 43 祈りの像 | 44 旧天神町北組慰霊碑 | 45 広島郵便局職員殉難碑 |
| 46 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 | 47 平和祈念碑 | 48 原爆犠牲建設労働者・職人之碑 |
| 49 原爆犠牲ヒロシマの碑 | 50 石炭関係原爆殉難者慰霊碑 | 51 広島ガス株式会社原爆犠牲者追悼之碑 |
| 52 広島県農業会原爆物故者慰霊碑 | 53 毛髪碑 | 54 被爆動員学徒慰霊 慈母観音像 |
| 55 世界のこどもの平和像 | 56 平和記念ポスト | 57 平和の池 |
| 58 「平和の祈り」句碑 | 59 ローマ法王平和アピール碑 | 60 ノーマン・カズンズ氏記念碑 |
| 61 平和の門 | 62 原爆ドーム | |

平成28年度親子ひろしま訪問団
訪問の記録

編集発行 秦野市市民部市民自治振興課
〒257-8501 秦野市桜町1-3-2
TEL 0463-82-5118

平成28(2016)年10月